

道徳科学習指導案

指導者 T 1 兼重 智考
T 2 重森恵美子

1 日 時 令和5年7月11日（火）6校時

2 学 年 第6学年（17名）

3 主題名 「本当の友達」 [B 友情, 信頼]

4 ねらい

三人それぞれの対応や考えに共通して足りない点を考えるなかで、よりよい友達関係を構築するためには、信じるのが大切であることに気づき、互いに信頼し、友情を深めようとする心情を育てる。

5 教材名 「ロレンゾの友達」
〔小学道徳 生きる力6〕日本文教出版

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目 [B 友情, 信頼] 「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」に基づくものである。これは、第1学年及び第2学年の「友達と仲よくし、助け合うこと。」、第3学年及び第4学年の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」からつながるものである。

児童にとって友達関係は重要な人間関係の1つであり、6学年の段階では、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達とのつながりを深めようとする。自分にとって都合のいい関係ではなく、お互いに磨き合い、高め合うことができる真の友情関係を築いていく必要がある。その関係を築くためには、相互の信頼が欠かせない。児童が互いを尊重しながら信頼し合い、単なる仲よしではなく真の友情を育もうとしていくことを考え、本主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、友情の在り方について具体的な問題場面で考えるように設定しており、どのように考えて行動することがよりよい友情を育んでいけるのかを様々な観点から考えることができる教材である。3人の意見はそれぞれ異なっているが、友達のことを考えて行動しているという気持ちは同じである。しかし、3人ともロレンゾのことを心から信じることはできていない。児童は、3人の行動について考えることで、友達のことをよく考えて行動することが互いの信頼につながることに気づくことができる。真の友情、友達を信じ

る心情について考え、本当の友達とはどんな関係であるべきか考えることができる教材である。

指導に当たっては、児童が主体的に考え、友達と意見交流をすることで、道徳的価値についての考えを深められるようにしたい。そのために次の4点に留意する。

- ①人物関係や言動をとらえさせるため、事前に何度か教材を読んでおく。本時では3人の関係や言動をとらえた上で、しっかり議論ができるようにしたい。
- ②展開前段では、3人のうち誰の考えに近いかを考えさせることで主体的に考えられるようにする。また、他の立場との意見交流をすることで、「本当の友達」についての考えを深めさせる。
- ③中心発問では、木の下で話したことをロレンゾに言わなかった理由を考えさせることで、ロレンゾを信じ切れなかった自分に気付き、本当の友達であり続けるためには信頼関係が大切であることに気付かせる。
- ④展開後段では「本当の友達」としてとるべき行動について考えさせることで、児童それぞれの日常生活に戻して考えられるようにする。相手を信じられなかったり自分本位になってしまったりする弱さに共感させながら、今後について考えさせたい。

7 準備物 ・挿絵 ・ワークシート ・意思表示カード

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	指導形態		○留意点●評価
			T 1	T 2	
導入 (5分)	1 事前アンケートの結果を示して、課題を設定する。	○「本当の友達」とはどんな友達でしょう。 ・いつでも一緒にいる人。 ・何でも話せる人。 ・「本当の友達」のとらえ方が人それぞれちがう。	発問	板書	○全員が本当の友達がいると答えているが、本当の友達に対するとらえ方が様々であることから課題につなげる。
「本当の友達」であり続けるために大切なことは何だろう。					
展開 (35分)	2 教材「ロレンゾの友達」を読んで考え、話し合う。	○ロレンゾから手紙をもらって、3人はどんな気持ちになっているでしょう。 ・本当にロレンゾが犯人なのか。 ・ロレンゾのことを信じたい。	発問	板書	○ロレンゾに対する信頼を表に表すことで、疑いの気持ちが全員にあることに気付かせる。 ○自分の立場を決めることで、主体的に考えられるようにする。 ○ちがう立場の人
		○3人の友達のうち、あなたはどの人の考えに近いですか。 ・アンドレ 友達だからかばいたい。警	機関指導	機関指導	

		<p>察に言うと裏切ることになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サバイユ 友達だからいけないことはいけないと言う。その後は本人の判断に任せる。 ・ニコライ ちゃんと罪をつぐなって欲しいし、本人のためになる。 ・みんなロレンゾを助けたいと思っている。 ・ロレンゾのためになることを考えている。 ・みんなロレンゾを信じ切れていない。うたがっている。 <p>【中心発問】</p> <p>○木の下で話し合ったことを誰もロレンゾに言わなかったのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当のことを言ったらロレンゾが傷つくと思ったから。 ・誰もロレンゾを信じていなかったなので、申し訳ないという思いがあったから。 <p>【考えを深める発問】</p> <p>○「本当の友達」なら、どの場面でどうすべきだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロレンゾが疑われていることを聞いたとき、まずは信じるべきだった。 ・本当は疑っていたことをきちんと謝って、これからもっといい関係になろうとする。 	<p>発問</p> <p>機間指導</p> <p>発問</p> <p>機間指導</p>	<p>板書</p> <p>機間指導</p> <p>板書</p> <p>機間指導</p>	<p>と意見を交流することで、友達に対して多様な考え方があることに気付かせる。</p> <p>○3人に共通する思いを考えさせ、助けたいと思っている一方で、誰もロレンゾを信じ切れていないことをとらえさせる。</p> <p>○信頼ができないと後ろめたい気持ちや後悔が残ってしまうことに気付かせる。</p> <p>○今の状態が「本当の友達」と言えるかを考えさせることで、本当の友達としてとるべき行動を考えさせていく。</p> <p>○本当の友達としてできることを具体的に考えさせることで、生活に結び付けられるようにする。</p>
--	--	--	---	---	---

	3 自分の生活を振り返る。	○「本当の友達」であり続けるために大切なことは何でしょう。 ・信じ合えるように相手を大切にすること。 ・相手のためになることを考えて行動すること。	発問	板書	<ul style="list-style-type: none"> ・信じ合う ・相手のために ・本気で考える <p>●よりよい友達関係を築くためにはお互いに信じ合うことが大切だと気付いている。</p>
終末(5分)	4 学習の振り返りをする。	○「本当の友達」について、今日の学習を振り返りましょう。	発問 机間指導	机間指導	

9 板書



10 成果と課題

- アンケート調査から課題を設定することで、児童の実態にあった課題を考えることができた。
- 中心発問→補助発問で、児童の考えがぐっと深まった。(議論したくなる発問であった。)
- 展開前半にかける時間が多くなり、中心発問から後の時間が足りなかった。

11 今後に向けて

- ・発問の精選を行い、展開のスリム化を図る。
- ・グループで話し合わせることと一人で考えることを区別し、時間の短縮を図る。